

びびぎ

No. 3

ドラム缶工業会会報

第2回 国際会議の概要 について

第2回の新鋼製ドラム製造業者国際会議は9月20日から24日の4日間、イタリア・フローレンスで開催されました。

アメリカ、ヨーロッパ、日本の3工業会を主体とする総参加国27か国、204名が参加し、技術問題、輸送及び規則問題、マーケティング問題、環境・再利用及びリサイクル、鋼製ドラム業界の将来及び戦略の5つのテーマについて、合計33件の発表（内日本より6件）が行われ、極めて真剣な発言と熱心な討議が重ねられました。

討議を通じて明確になったことは、この5テーマは共通の問題ではありましたが、内容としては各地域ごとにかなり事情が違っているということでした。その幾つかをご紹介します。

規格の国際統一

技術問題では、ドラム缶規格の国際統一が大きな問題ととりあげられました。これは従来から国際標準化ワーキンググループで検討を行ってきた問題であって、55ガロン缶主体のヨーロッパやアメリカと200ℓ缶主体の日本とでは、その主張に大きな差があります。

もし55ガロン缶が国際統一規格になったと仮定すると、日本の需要家の皆さんは、JIS缶とは口金の位置が異なるために、充填設備を改造する必要が生じるでしょう。またドラム缶メーカーや更生缶会社も設備を改造しなければなりません。

日本の主張は、国際標準化は賛成ですが、ユーザーの賛同なしに決めるべきではないことと、この際現状を白紙に戻して、ドラム缶の形状は将来どうあるべきかという基本から議論すべきだということです。結局国際標準化の検討は、今後のワーキンググループの活動にゆだねられました。

競合材について

鋼製ドラム缶の競合材としてのIBCs (Interme



diate Bulk Containers…主として角型の1トンコンテナ)、プラスチックドラム、ファイバードラムの市場進出が米国、欧州では大問題となっていますが、日本では注目はされているものの現状では住み分けがされていて今のところ大きな問題にはなっていません。鋼製ドラムのイメージアップが必要という見解は各国共通の認識でした。

回収と廃棄

空ドラムの回収と廃棄の問題も、スチールリサイクルシステムを円滑に行うことが重要という点では一致していますが、ドラム回収システムから問題となっているアメリカ、現状では再利用率の低いヨーロッパ (one way 約60%)、ドラム回収再利用システムは確立されており、スクラップ問題がクローズアップされつつある日本とでは重点とする視点が微妙に違っていました。

しかし、回収と廃棄の問題は、環境上ますます重要な課題になるといえます。鋼製ドラム缶は回収再利用が可能で、材質的には良質なスクラップであることなど、環境保全の面では優等生であるといえましょう。従って、このリサイクルシステムのレベルアップにさらに力を注ぐことが必要と思っています。

今回の国際会議の決議の一つとして、国際鋼製ドラム製造業者連合会 (ICDM…International Confederation of Drum Manufacturers) の創設が決議されました。

そして第3回の国際会議は1995年日本で開催されることが決定しました。ドラム缶工業会としては、フローレンス会議を上回る活発な討議が行われるよう国際委員会を中心に準備を開始いたしました。



ユニクロめっきへの切替えを！

——ドラム缶の口金の選択について

(その2)

前回はクロムめっき口金についてお話ししました。今回はその他の口金等についてお話ししたいと思います。

亜鉛合金ダイカストプラグの得失

最もお馴染みの深い亜鉛合金ダイカストプラグは、鋼製ドラム缶用のプラグの大量生産が亜鉛合金ダイカスト製で始まった経緯もあり、その後の変遷はあるものの、現在でもプラグ全体に占める比率は8割強です。

耐候性では、亜鉛合金ダイカストは鋼に比べて赤錆には強いですが、白錆を発生します。鋼は錆対策としてめっきする必要がありますが、亜鉛合金は母材自身が耐候性を有しています。

取扱い方次第では異物が発生

機械的には亜鉛合金の硬度が低いので、他の金属（例えば鋼）のエッジが当たると切削片が取れます。特に、ダイカストの場合には金型の合わせ目にバリが出るので、バリ取りを機械で行いますが、転造ねじまたは機械加工のねじと比べればやはりねじ面に凸部が残り、取扱い方次第では目で見える大きさの条または片がでることがあります。

ドラム缶内部の異物を最小限に押さえるためにも、亜鉛合金製ダイカストプラグを順次ユニクロめっきプラグに切替えることを考える時期だと思えます。

ユニクロめっきのあるべき姿

このようにユニクロめっき口金は他の材質に比べて優れた点が多々ありますが、現状で満足してしまうことなく、さらに改良を進めます。そのためにも、我々は「ド

ラム口金用電気亜鉛めっき」という工業規格を作成し、その品質の維持向上を目指しています。

その他の材質の口金

錆や異物の発生がないことを狙って、プラスチックのプラグがごく稀に使われることがあります。しかし耐圧性能が十分でないため、現在ではごく限られた用途に使われるのみです。

* * *

次に、フランジ用とプラグ用のガスケットについてお話しします。

ガスケットの将来像

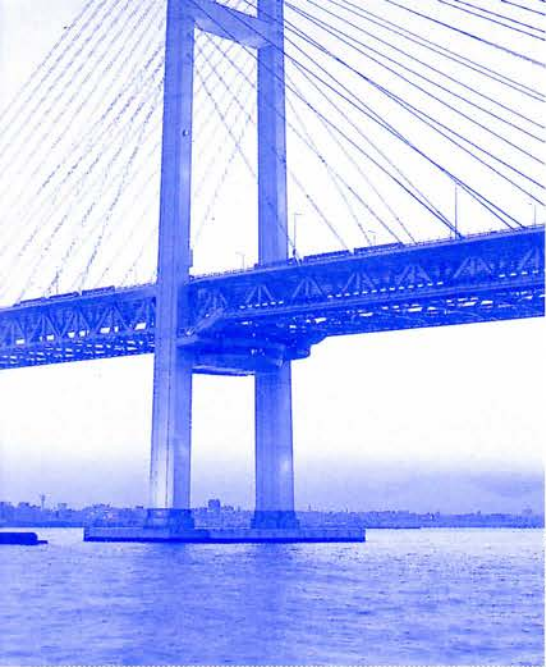
従来ガスケットとしては、耐薬品性、耐熱性、耐圧強度に優れたアスベストが主流でしたが、近年アスベストの発癌性が注目され、国の指示もあって素材の製造工が順次閉鎖されてきています。素材供給も長くは望めないようですので、今後は他の材質に移行する必要があります。

フランジ用には耐圧強度と弾力性の両方が必要ですので、NBR単体、またはエラストマーかコンパウンドとNBRとの組合せ材が、現在入手し得る最良品です。

プラグ用ガスケットには、ねじで押付けが効きますので、ポリエチレンかNBR単体が現在の最良品です。

* * *

以上述べましたような方針でフランジ、プラグ及び各々のガスケットを選定し、お客さまに推奨いたしますので、参照してお決めください。



多重巻き缶が1.2%増加

平成4年度(1992年度)上期のドラム缶生産は、前年同期比3.2%減の17万5千70トン、出荷も同比3.2%減の17万5千271トンとなり、生産・出荷とも前年実績を下回った。

この出荷を、缶種別・用途別にみると表-1に示す通りである。

このうち、200ℓ缶の出荷本数は、前年同期比3.7%減の608万7千本で、うち81万5千本(13.4%)が間接輸出に向けられており、前年を1.6%上回った。

また、主として危険物用に使用される多重巻き缶の構成比は46.4%で、同比1.2%増加している。

ペール缶は、同比0.7%増の1,345万8千本であったが、缶種別の構成比は、ラグペール70.9%、バンドペール17.4%、タイトペールが11.7%となっている。

表-1 平成4年度上期(4~9月)ドラム缶・缶種別・用途別出荷本数

用途		単位：千本						前年同期比
缶種		石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	
200ℓ	Q缶	1,036	4,474	371	79	127	6,087	96.3%
ペール		6,844	5,299	860		455	13,458	100.7
100ℓ	Q缶	8	81	1		微	90	92.5
50ℓ	Q缶	1	103	微		微	104	84.8
20ℓ	Q缶	15	196				211	87.2
アス缶型		2	10				12	179.6
その他容量缶		3	432	微		4	439	97.0
亜鉄板鉛缶	200ℓ		115	3	1	7	126	108.7
	その他		153	微		微	153	82.7
	小計		268	3	1	7	279	92.7
スレス缶	200ℓ		5	9			14	133.9
	その他		4				4	80.6
	小計		9	9			18	116.3
合計		7,909	10,872	1,244	80	593	20,698	98.9
構成比		38.2	52.5	6.0	0.4	2.9	100	—

DATA FILE

COLUMNS

イタリアでの国際会議に出席した某氏。事前にガイドさんから「こんと注意されたにも拘らず、ローマはコロッセオのそばで絵に描いたような襲撃にあった。襲つたのは10歳前後のジプシー

の女の子数人。一人が突然目の前に新聞を広げて差し出すものだから、何事かと一瞬某氏が戸惑う隙にスルスルと他の女の子の手が某氏のポケットへ。某氏の大声に気付いた同行者の

一人が、逃げる女の子の手を機敏にハッシノと叩けば、ローマの石畳にバラバラと銭が散乱。それを日本の中年とジプシーの女の子が競争で拾い合い。おかげで被害は最小限ですんだとが。

それにしても、相手はカモを狙ってくるんですよ。これからガイドさんの言うことをよく聞いて気を付けましょかね、おじさん達。





山陽ドラム缶工業株式会社

当社は1961年11月に創立、
本年は31周年を迎えます。
当初は三菱石油(株)水島製油
所のアスファルト缶の生産
供給工場として発足し、一
時期は年間188千本の生産
に達しましたが、流通方式
の変更等による需要減に伴
い生産を本年春休止しまし
たが、これに代わる商品と
して1968年より200Qドラ
ム(ステンレスドラムを含む)、
ついで1970年より燃料用灯
油タンクを生産して今日に
至っております。200Qドラ
ムとしては多重巻による危
険物容器の比率は50%を
超え品質要求の厳しい製
品が多く含まれておりま
す。また現在新缶メーカー
としては、わが国最初の縦
型塗装設備にリプレースし
て生産効率の強化を図って
まいります。

品質至上主義をモットーに200Qドラムを主体に、付加価値の高いステンレスドラム・灯油タンクを生産し、地域顧客のニーズに対応してゆくことに努力いたしております。



新邦工業株式会社

わが国でペール缶が市場
に国産第1号として登場し
たのは昭和27年。神奈川
相模原にあったアメリカ軍
物資補給庁倉庫の一隅に光
彩をはなっております。
手製の労作は、終戦後の混
迷時に技術の粋を集めた逸
品でした。これを手がけた
のがわが社の社長入江仁
臺です。

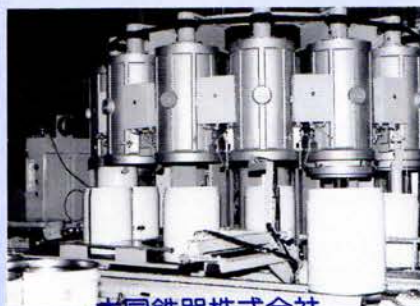
時移り人変り、現在では

マス・プロダクトならではの仕事となりました。

難事に直面するとよく“初心にかえる”等といわれますが、わが社の伝統は常に熱意と誠意で初志を貫徹。お客様のニーズに即応しているのが自慢の種となっております。

是非是非わが社をご活用お試し下さい。難題も専門メーカーとして創立40年を終えた老舗だから出来るのです。

ユーザー本位！ ニーズに即応！ 老舗だから出来る専門メーカー



大同鉄器株式会社

昭和22年に設立以来、45
年に亘るご愛顧に、感謝い
たします。

当社は、大同鋼板(株)の直
系の企業であり、ペール缶
と中小型ドラム缶を主体に
生産・販売し、その他に湯
たんぼ・杓等の家庭器物も
手掛けております。

当社製品の主材料には、
大同鋼板・新日本製鐵等の
製品を充てると同時に、親

会社の支援もえながら、最新の情報と技術を導入し、絶えず高品位の製品の生産・販売に努めています。

「人は服装によって創られる」とか「人は外見をみて、中味を評価する」とも言われます。

当社の容器も、単に運搬・貯蔵用としてだけでなく、お客様の商品の価値を高めるのに、お役に立つことをお願いいたしております。

今後とも、お引立て、ご愛顧をたまわりますよう、お願い申し上げます。

ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

O.S.K. 株式会社大阪製罐所
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601

川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371

鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711

斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生妻3-15-14 ☎ 045-521-3881

山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680

新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町3-27-3 ☎ 03-3861-5285

大同鉄器株式会社
新潟市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468

株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511

東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212

株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

株式会社新潟容器製作所
新潟市新崎386-7 ☎ 025-259-3201

日鐵ドラム株式会社
東京都中央区銀座1-7-10 ☎ 03-3562-0251

株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 0434-98-3551

株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

uc 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.3 (平成4年11月30日発行)

発行人 ドラム缶工業会
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。